

# つなぐ

Vol.50

2022.1月

血液透析においてシャント狭窄や閉塞などのトラブルは付き物である。これまでバルーンによって血管を中から広げる経皮的血管拡張術「PTA」が行われてきたが、開存性の向上や再狭窄を軽減するステントグラフトやDCB（ドラッグコーティングバルーン）が応用され、シャントトラブルに新たな治療戦略が生まれている。

これらの治療は腎臓内科と循環器内科が協力し合って行う必要がある。現在、ステントグラフトは腎臓内科医自らが行える治療体制を築いたが、DCBについては実施基準が高いため腎臓内科医自らがDCBを実施することは難しい。そこで腎臓内科をバックアップするのがDCB通算1,000例の実績を誇る循環器内科末梢血管チームである。現在国内でシャント狭窄へのDCBを行うには、院内に経験豊富な末梢血管チームがいなければ難しいであろう。

これらの治療を通じて腎臓内科と循環器内科は1つのチームとなった。人間の体はそもそも心腎連関している。診療科が縦割りで動いていたのではうまくいくはずがない。他科へのコンサルテーションというつながりでなく、診療科の垣根を超えて透析患者さんに向き合っている。





第59回

# 小倉循環器内科セミナー

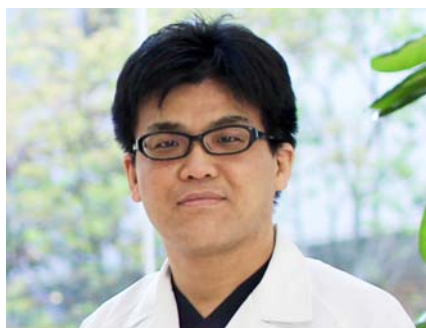
2022年 1月26日(水) 18:00~18:30



## 冠微小循環障害 の診断と治療

座 長

小倉記念病院 副院長  
循環器内科主任部長 安藤 献児



講 師

小倉記念病院  
循環器内科 副部長 藏満 昭一

### 参加方法



Zoomによる  
web参加のみとなります!

Zoomの事前登録は不要ですが、  
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



### PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研究会→④Zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



### スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで  
いただくと参加が可能になります。

